

# どがやがや 木田市です!!

大田市ふるさと情報誌

## VOL.35

2017.2



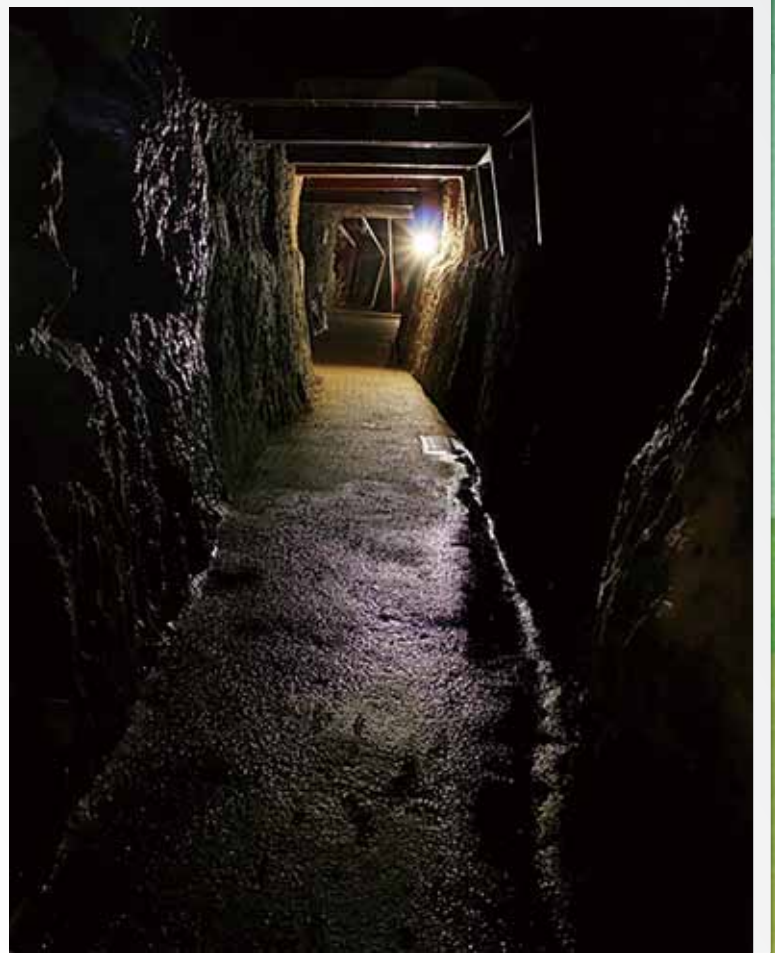
「石見銀山遺跡とその文化的景観」は  
2017年7月2日に  
**世界遺産登録10周年を迎えます!!**



### 石見銀山遺跡を巡って

表紙の写真は写真甲子園2016で  
全国優勝した大田高校写真部が世  
界遺産登録10周年にあわせて大  
森町や温泉津町で撮影しました。

P11に「世界遺産登録10周年  
記念日100日前イベント」の  
記事を掲載しています。



# 東京から北三瓶に移住 地域の文化を発信しています！

にし じま かず ひろ  
西嶋一泰さん

## 地域おこし協力隊として

2016年7月に地域おこし協力隊として、東京から家族で北三瓶地区に移住した西嶋さん。現在は山村留学センターで活動の様子や地域の文化の情報発信を担当しています。

地域おこし協力隊は、総務省が推進する制度で、都会から地方へ人を呼び込んで地域づくりに関わってもらおうというもの。全国で約3000人の隊員が活動中です。隊員には年間最大200万円の人件費、200万円の活動費の予算がつき、任期は最大3年。任期終了後の定住が期待されています。現在、大田市では8人の地域おこし協力隊が活動中です。

## やりたかったことができる

東京では民俗学の研究者だった西嶋さん。祭りの調査で山奥や半島の先など過疎地域を訪れる機会が多くありました。「自分が大好きな地方に伝わる文化を調査するだけでいいのか、過疎地域にもっと直接的に関わる方法はないかと悩んでいました」と話します。そこに山村留学を魅力化する協力隊の募集の話が舞い込み、応募を決めました。移住した感想をお聞きました。「地域に入ってから、祭りなどを手伝い、あれこれ教わりながら、楽しい日々を送っています。センターや地域の活動を得意なウェブ・映像を駆使して発信する今の仕事にやりがいを感じています」

## 定住にむけた仕事づくり

「三瓶山の原っぱは気持ち良く、環境もいいので子育てをしながら住み続けたいですね。今は副業でライターや映像制作もしています。今の仕事で実績をあげながら、地域に残る方法を模索中です。」

同じく東京出身の妻の遥さんは東京の会社と契約し、家で子育てをしながら、会議の文字起こしの仕事を在宅でしています。

スキルを活かして地域に根付いていこうという西嶋さんご夫婦の挑戦は続きます。

東京から妻と娘、  
家族3人で三瓶に  
移り住んだ西嶋さん

# 子どもたちに、1泊～1年の 自然体験させてみませんか？



国引き神話にも登場する国立公園三瓶山。その麓で子どもたちがのびのびと豊かな自然を体験し、生きる力を育んでいく場所をつくりたい、という想いのもと、1993年に大田市山村留学センターは開園しました。

小学3年生～中学2年生が対象の1年間の長期山村留学では、これまで都会から延べ200人近くの子どもたちを受け入れてきました。

また春・夏・冬の学校の長期休みなどに実施する1泊～11泊の短期山村留学には、延べ2000人以上の子どもたちが山・海・川・里の自然体験プログラムに参加しています。

修園生たちは、今でもセンターや里親農家さんの家を訪ねてきます。子どもたちにとっては大田が第二の故郷となっています。

島根が誇る豊かな山・海・川・里の自然を体験させてみませんか？ 大人も参加できるプログラムもございますので、ぜひ気軽にお問い合わせください。

## 大田市山村留学センター



### 1年間の長期山村留学

小学3年生～中学2年生対象  
年間約70回以上の自然体験を開催！  
センターや里親農家に滞在しながら通学

### 1泊～11泊の短期山村留学

幼児～大人対象  
春・夏・冬の長期休校中や土日開催  
山菜採り・海釣り・スキー等季節の自然体験

### 運営 大田市教育委員会など

〒694-0002 島根県大田市山口町山口 1694

☎ 0854-86-0700

FAX 0854-86-0701

Email o-sanryu@iwamigin.jp

Web・Facebook で情報発信中！

大田市山村留学

検索



# 大田で夢だった保育士に 矢田桃代さん

みんなが楽しく砂場遊び  
(あゆみ保育園ごと)



「小さい頃から子どもの面倒をみるのが好きで、小学生の頃から保育士になることが夢でした。妹やいとこの面倒もよくみていました」と矢田さんは話します。  
矢田さんは、子どもとかかわる仕事が出来たいと考える中で、幼い子どものほうが日々の成長を感じられると思い、保育士の道を目指しました。

矢田桃代さんは平成28年4月に大田市へUターンして保育士として奮闘中。そんな矢田さんをご紹介します。

大田市で生まれ育ち、親元を離れ、自立を目指して兵庫県の短大へ進学しました。短大では幼児教育を学び、保育士の資格を取得しました。短大での寮生活で、改めて実家のありがたみを感じ、また都会と大田を比べると自然の豊かさや人のあたたかさなど、大田の良さを改めて感じました。

大学生活を送るうちに、卒業後は都会で働くよりも大田に戻って働きたいと矢田さんは考えました。大田市に絞って就職活動を行い、あゆみ保育園(大田市大田町)での採用が決まりました。

現在、保育士1年目の矢田さんは一人前の保育士を目指して奮闘中です。

「大変なことや辛いこともありませんが、先輩の先生方のアドバイスや言葉に助けられて毎日楽しく仕事をしています」と保育士の仕事に楽しさを感じながら日々を送っています。

「これからも地元の大田で保育士を続けていくことが将来の夢です。子どもが安心して楽しく過ごせるような雰囲気や居場所を作れる保育士を目指しています」と話す矢田さんの今後の活躍に期待しています。

## 矢田桃代さん (あゆみ保育園)

1歳児の1クラス(2クラス各13人)を担当。高校まで大田市で過ごし、進学を機に兵庫県へ。2年間の兵庫県での生活を経て大田市へUターン。



矢田さんに大田市と都会(兵庫県)を比べて感じたことを聞きました!

大田

良いところ…自然が豊か\*人があたたかい  
食べ物が新鮮でおいしい

困るところ…お店が少ない

都会  
兵庫県

良いところ…お店が多い\*交通の便が良い  
困るところ…あいさつが少ない





## 第3回

# 日本クアオルト協議会大会 inおおだ

～全国各地から150人が参加し盛大に開催～

りゅうげんじまぶ  
龍源寺間歩を活用した坑道療法を体験。サザエの貝殻を使った「ら灯」を頼りに坑内へ。明暗差などが自律神経を刺激し、ストレス軽減効果が得られます。



温泉街から温泉津港を往復する早朝ウォーク。町並みや文化財など、スポットごとに説明を聞きながら散策。朝食前の適度な運動がもたらす健康効果を体験。



鳴砂の浜「琴ヶ浜」をポールを使ってウォーキング。砂浜の感触を楽しんだり、冷たい海水や潮風の刺激を感じたりすることで得られる健康効果を体験。



自然歩道を歩きながらの森林浴と芝生に寝転んでのストレッチを組み合わせたプログラム。紅葉に彩られた自然を堪能し、心とからだをリフレッシュしました。



大田市が加盟する「日本クアオルト協議会」の第3回国大会が11月9日から3日間、当市を会場に開催されました。この協議会は、加盟団体が連携し、自然・文化・温泉などの地域の資源を活用して、滞在型の健康保養地づくりを推進することを目的に平成26年度に発足。「健康まちづくり」に取り組み当市は、平成27年度から加盟しています。

「世界遺産・山・海 地域資源を活かした健康のまちづくり」をテーマとした今大会には、加盟8自治体をはじめ全国各地から約150人が参加。市内4地区で、健康プログラムを体験しました。各地区の資源を活用したプログラムが、参加者の皆さんから高い評価を得ました。



大田市では、「市民の健康づくりとその環境づくり」と「健康と観光を組み合わせた保養地づくり」を一体的に推進する「健康まちづくり」を施策の柱に位置づけ取り組んでいます。今年度、その指針となる「健康まちづくり推進方針」を策定し、各種の計画にこの推進方針の内容を反映するとともに、「健康まちづくり」の視点を持って事業を実施していきます。

**「健康まちづくり」を推進**

音楽と料理で楽しみを!  
大人も子どもも楽しめるまちにしたい!



▲青い看板が  
印象的なお店

# cafeごはんRead<sup>リード</sup> 松下<sup>りょうじ</sup>怜司さん



▶松下怜司さん  
(cafe ごはん  
Read にて)



松下怜司さん(35歳)は5年前に東京からUターンしました。東京では音楽関係の仕事をしてきた松下さん。大田市へ戻ってきたものの「大田市には楽しいことがなにもない」と感じ、「音楽で大田に楽しみを」と考え、ミュージックバーReadをオープンします。

「若者が遊ぶ場所がない。音楽と料理を通じて気軽に集まれる場所を作りたいかった」と松下さんは話します。

お店には音楽とお酒を楽しむだけでなく、10代から20代にかけて修行した松下さんの料理を目当てに来る人も。たくさんの方が訪れる中で、もっと幅広い年齢層が集まれる場所にしたいという気持ち芽生えます。

オープンから3年が経ち、ミュージックバーReadはcafeごはんReadに移転新規オープンしました。

「夜だけの営業よりも昼の営業をしたほうが様々な人に来てもらえる。10代から学んでいる料理には、おいしいと言ってもらえる自信があり、料理を中心にしたお店にしたかった」と松下さんは話します。

10種類以上のスパイスで3日以上煮込んで作る「Readカレー」、オリジナルのタレに2日間漬けた「特製鶏の唐揚げ」など人気のメニューを目当てに大人から子どもまでたくさんの方が足を運びます。

「もっと気軽に入れるお店にしたい」とメイプルシロップを練りこんだコーンを使ったソフトクリームも店内で味わえるようになりました。

様々な人が来店する中で、人と人との繋がりが自然とできていきます。そんな中で活動

クリスマスイベント「メリーコスプレマス」にて



## cafeごはんRead

住所：大田市大田町大田ハ125-2武部ビル1階  
(グッディー大田店の斜め向かい)

電話：0854-83-7765

営業時間：11時～20時(金・土のみ11時～24時)

定休日：月曜日、第4日曜日

Facebook cafeごはんRead

家族でもひとりでも気軽に入れるカフェ。小上がりもあるのでお子連れでも安心。カウンター席ではおひとり様も気兼ねなく過ごせます。

からあげ弁当とReadカレーはテイクアウトOK。

通常メニューのほかに4名以上でコース料理(要予約)も承っています。(詳細はお問い合わせください) 貸切でのご利用もお気軽にご相談ください。

▶「らとちゃんソング」は cafe ごはんReadのほか、ブックセンタージャストプラスゲオ大田店でお求めいただけます。(CD+DVD：1,200円)



を開始した「SHIGOMBO(しごんぼ)」。SHIGOMBOでは高校生から30代までの12人が活動中。

「大人が本気で遊ぶ」をモットーに企画者、参加者ともに楽しみながらイベントを行っています。様々な仕事や経歴を持つメンバーが集まっており、イベントを企画するときも様々な意見が出ます。対等な立場での横のつながりを大切にしたいと考えるSHIGOMBOでは、固定のリーダーはおらず、意見を出した人がその企画のリーダーになります。お寺でやきいもを焼いてみんなで食べたり、クリスマスにコスプレをして集まったりしたイベントではたくさんの方が参加しました。今後楽しいイベントを企画していく予定です。

松下さんは3人の子どもの父親でもありますが「しまねっこのうた」のダンスを踊っていました。

「大田市にはマスコットキャラクターのらとちゃんがいるのに」と思った松下さんは東京に住むシンガーソングライターの知人とともに「らとちゃんソング」を作りました。また歌にあわせたダンスは地元の同級生にふりつけてもらったものです。松下さんは保育園へCDとDVDを無料で配布。運動会などで園児たちが元気に踊りました。

「20代の人と話をしている、幼かった頃の大田の記憶があまりない。歌とダンスを通じて、大人になったときに、少しでも大田で楽しかった記憶を残したい」と松下さんは話します。

# 祝!!成人」大田市成人式

ご成人おめでとう!!おめでとうございます



大田市成人式を1月4日に、大田市民会館で開催しました。当日は、新成人313人のうち253人が出席。スーツや華やかな振り袖に身を包んだ新成人たちが集い、旧友との再会を喜んでいました。

式典に先立って、今年7月2日に「石見銀山遺跡とその文化的景観」の世界遺産登録10周年記念事業として行われる「オペ



新成人を代表し決意を述べる大羽さん(左)田平さん(右)

ラ石見銀山」の動画を上映し、記念事業のPRを行いました。

式典前のアトラクションでは、「オペラ石見銀山」へ出演予定である大屋神楽社中による「大蛇」が披露され、新成人の門出を祝福。迫力ある石見神楽の上演に、会場は大きな拍手で包まれました。

式典では、竹腰創一市長が「ふるさと大田の未来を自分たちが築いていく、という気概を持ち、それぞれの夢や志に向かって進んで欲しい」とエールを送りました。

また、竹腰賢一さん(一社)島根大田青年会議所)から、「さまざまな出会いに感謝し、自分の力に変えていくことで、それぞれの未来を切り拓いていって欲しい」と新成人たちへ激励の言葉が贈られました。

新成人による決意表明では、代表の大羽智之さん(温泉津町)が「教育の分野から郷土へ恩返しができるように努力を積み重ねていきたい」と述べ、田平悦子

市長から記念品を受け取る賀戸亜子さん(仁摩町)



大屋神楽社中による神楽上演



さん(大田町)は「大切な仲間や友達と支え合いながら、自分の進む道を創り出していきたい」と決意を新たにしました。

新成人たちは記念品として、石見銀山遺跡世界遺産登録10周年を記念したエコバッグを受け取り、式典終了後も友人同士で集まり、旧交を温めながら写真撮影や談笑をしていました。







## 地域おこし協力隊

# 呉市の観光イベントで 特産品販売と観光PR

### 隊員同士のつながりで実現

12月11日に広島県呉市で開かれた観光イベント「とびしまーレ」に、大田市の「地域おこし協力隊員（以下、「隊員」）で富山町担当の竹内恒治さんと三瓶地区担当の河野寛美さんが参加しました。

このイベントは、呉市の「とびしま海道」沿いの島で

活動する隊員が企画したもので、今回で4回目の開催。地元グルメや特産品が販売され、毎回、大勢の人出でにぎわっています。

大田市からは「とみやまこがね味噌」「富山産新米コシヒカリ」、三瓶の「大脱走（レトルトキーマカレー）」「三瓶そば」など、隊員の担

当地区の特産品を販売。炊き立てのお米を試食し、「おいしい」とまとめて購入される人も。

また、温泉津町の「やきもの館」の体験予約の受付や陶器の販売、観光パンフレットを配布するなど、大田市の魅力をPRしました。このイベントは、両市の隊員同士のつながりから声

なったもの。当日もイベントの企画や運営のノウハウ、隊員同士の連携や協力体制について、他の地域の隊員と情報交換をしました。

なお、竹内さんの担当地区の富山町から、入石営業組合の皆さん7人も応援参加。試食用のご飯の炊き出しや特産品の販売に汗を流しました。



富山町の活性化に精力的に取り組んでいる、地域おこし協力隊員の竹内恒治さん。「第2回“農業・農村はカッコいい!”和歌募集」で全国23府県から応募のあった172首の中から、竹内さんの詠んだ和歌が、優秀賞に選ばれました。

写真：雲南市での授賞式（11/19）

#### ◆受賞作品◆

空に星 地には稲穂が輝いて 鍬ふる君は 汗にきらめく

#### ◆竹内さんの受賞コメント◆

兵庫県から富山町に引っ越して、もうじき丸2年になります。山間部での暮らしは初めてなので、驚きの連続で毎日飽きることがありません。

都会では弱々しくてハッキリ見えなかった星が大田では夜空一面に輝き、風が吹くたびに稲穂が黄金色の波を打つ。そして、そこに住む人々が額に汗して懸命に暮らす姿は、何事にもかえがたく美しいと感じています。

今回、優秀賞をいただいた和歌は、そんな日々の想いから自然に生まれました。力強くたくましく生きる姿、その姿こそが美しく、農村の魅力なのだという事を、多くのかたが認めてくださっている証であると思います。

### 農業・農村はカッコいい！和歌募集 富山町の竹内隊員が優秀賞

#### 活動報告

### 女子目線で 三瓶の魅力を 開拓・発信

河野隊員（三瓶地区）



登山やキャンプ、高原風景、豊かな自然は三瓶の最大の魅力ですが、それだけじゃない！——足元おしゃれサンダルの女子も、レトロなリフトにゆられて山頂からの景色を望み、美肌温泉に浸って、ステキカフェでまったり。ヘルシーな蕎麦、巨木パワースポットなど、ゆるくおいしく楽しめる「新しい三瓶の遊び方」をSNSや冊子で発信しています。

また、映画館のない大田に映画を!との思いから「三瓶の自然×三瓶の食×映画」のコラボ『さんべ山の上映会』を12月に開催。このほか、「三瓶そば」「三瓶放牧牛」の普及イベントの企画など、三瓶の「食」の魅力の発掘や発信に取り組んでいます。

# シリーズ 石見銀山<sup>35</sup>

## —温泉津の町並みと整備事業3—

湯乃街線の調査では16世紀後半を中心とする遺物が多く見つかかり、当時の温泉津の賑わいぶりが明らかとなってきました。今回は発見された遺物から当時の温泉津を取り巻く歴史的背景について考えてみたいと思います。

左下の写真は「天目」とい、「茶の湯」の席で好まれた焼き物です。「茶の湯」は現在の茶道の源流となるもので、特に時の支配者《豊臣秀吉》がこれを好んだといわれています。

当時の石見銀山は秀吉の管理下にあります。秀吉は銀山で産出する豊富な銀を背景として朝鮮半島に「文祿・慶長の役（1592-1598）」と呼ばれる出兵を行っており、この出兵後に朝鮮から連れ帰った職人は、その後の日本の製造業に大きな変革をもたらしました。特に陶工と呼ばれる職人は唐津焼や萩焼などに影響を及ぼしたといわれていることから、この出兵のことを「やきもの戦争」と呼ぶこともあります。

また、湯乃街線の調査で見つかった遺物をみると、佐賀県にある「名護屋城陣跡」で見つかった遺物と似ていることが指摘されています。

「名護屋城」は秀吉が朝鮮出兵の拠点としていた施設で、場内からは茶器をはじめ、当時生産が開始された漳州（中国南東部、現在の福建省付近）周辺で作られた焼き物が多く発見されています。

温泉津で見つかった焼物も、この漳州付近で作られた焼物も多く、温泉津の繁栄は石見銀山の銀生産のみならず、朝鮮出兵に際し、この軍事物資の輸送や九州北部との交易にも目を向ける必要があるようです。

全3回のシリーズを通して湯乃街線の調査に至る経緯や、出土した遺構、遺物について解説してきましたが、出土した遺物から温泉津の港町が形成された以後の繁栄が明らかとなったほか、現在の温泉津の町並みの成立を考えるうえで重要な遺構がみつかかり、大きな調査成果が得られました。発掘調査報告書などにより、港町であった温泉津の歴史像がより具体的にたることが期待されます。

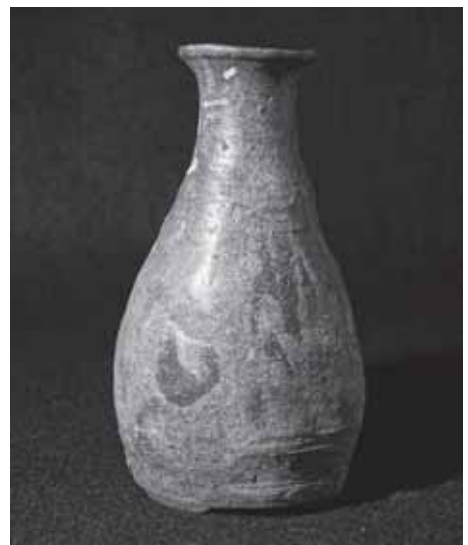
### ●お問い合わせ先

大田市役所石見銀山課

☎0854-18318132



湯乃街線の調査で見つかった天目  
(美濃焼 16世紀後半～17世紀)



湯乃街線の調査で見つかったとっくり  
(朝鮮産 16世紀後半)

# 石見銀山世界遺産登録10周年 100日前イベント開催!!

7月2日に「石見銀山遺跡とその文化的景観」は世界遺産登録10周年を迎えます。その100日前にあたる3月24日～26日にかけて大森町を中心にイベントを開催します。

歴史・自然・文化に触れる楽しいイベントが盛りだくさんの3日間。みなさんぜひお越しください!!



## 3月24日(金) 石見銀山公園

セレモニー  
世界遺産モニュメント除幕式



ユネスコのロゴと世界遺産の標章、ユネスコの精神「平和と人権尊重」を表示した記念銘板(世界遺産モニュメント)を大森町の石見銀山公園に設置します。

## 3月25日(土)

世界遺産センター展示無料公開  
石見銀山街道ウォーク【申し込みが必要です】  
①鞆ヶ浦コース…(9:00～14:00【約6km】)  
②銀山コース…(10:00～12:30【約4km】)

## 3月25日(土)・26日(日)

大久保間歩公開区域拡大部分先行限定公開ツアー【申し込みが必要です】

## 3月26日(日) 大森町並み交流センター

屋台村  
石見神楽  
スタンプラリー

昨年募集した『梅しんぴコンテスト』受賞メニューの試食コーナーもあるよ☆



## 10周年関連イベント

- 3月5日(日)～12日(日)  
10:00～16:00(12日は15:00まで)  
石見銀山に春を呼ぶ…  
第6回おひなさま展【会場:大森町並み交流センター】
- 3月12日(日)9:30～15:00  
石見銀山 梅まつり【会場:石見銀山公園】
- 3月25日(土)・26日(日)10:00～15:00  
第14回春うらひなまつり【会場:水仙の店、川上家】
- 3月26日(日)13:00～16:30  
「神話と万葉」講演会【会場:あすてらす研修室】
- 3月26日(日)開場12:30/開演13:00  
オペラ「石見銀山」プレコンサート  
鍵盤男子【会場:あすてらすホール】



3月25日  
世界遺産センター  
展示無料公開

大久保間歩  
公開区域拡大!  
7月～一般公開(予定)

3月24日～26日  
龍源寺間歩 入場無料

3月25日、26日  
先行限定公開ツアー

3月25日  
カヌー体験

3月25日  
石見銀山街道ウォーク

3月26日  
石見神楽

3月26日  
スタンプラリー

3月26日  
屋台村

屋台村やスタンプラリーもあるよ!  
みんな来てね!!

詳しくは

イベントの詳細や、『大久保間歩公開区域拡大部分先行限定公開ツアー』と『石見銀山街道ウォーク』のお申し込みについては、大田市ホームページをご覧ください。

石見銀山世界遺産登録10周年

検索

【お問い合わせ先】

石見銀山世界遺産登録10周年観光キャンペーン  
実行委員会  
(事務局:大田市観光振興課 ☎0854-88-9237)



©2012 大田市 K284 らとちゃん

# 3月24日～26日は龍源寺間歩入場無料!!!

※龍源寺間歩までの市道は災害復旧工事のため、一部道幅が狭いところがあります。ご注意ください。



子どもたちもお祭りの  
雰囲気を楽しんでいました

ふるさと  
今

# 地域の力で、伝統行事復活!!

## ～温泉津町小浜「えびっさん」～

皆さんは「えびす講」という行事を耳にされたことがあるでしょうか。かつて温泉津駅前通りでは商店や露店がひしめき、「えびす講」と銘打った催しが毎年11月末に開催されてきました。しかし、人口減少や商店の閉店などの影響から、二十数年前にえびす講は途絶えてしまいました。

あの頃のにぎわいを取り戻したい——そんな思いから商店会や商工会、公民館やまちづくり団体を中心に、生まれ変わった「えびす講——『えびっさん』」が開催されました。

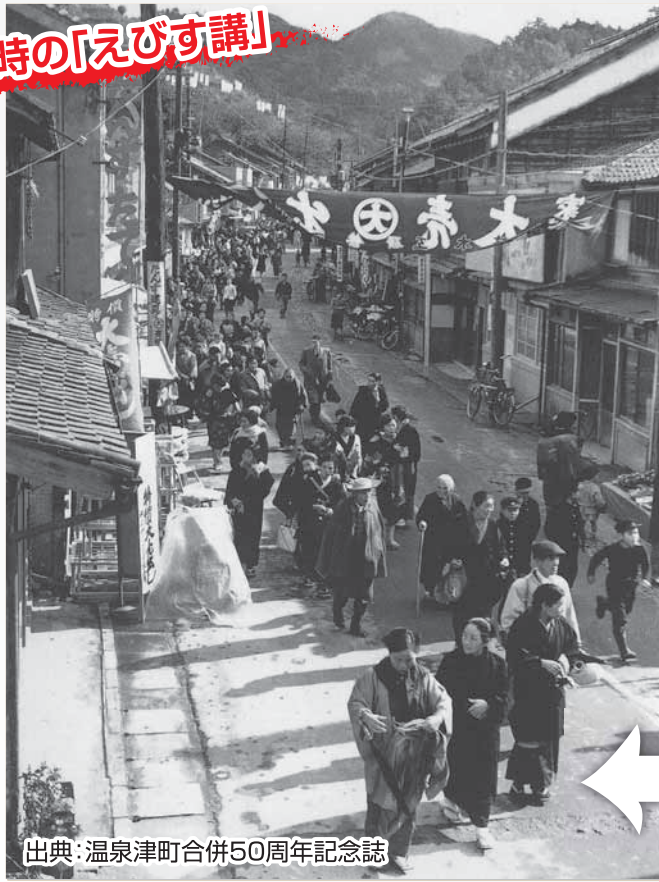
昨年12月4日、『えびっさん』当日の温泉津駅前通りは、およそ800人を超える人出でにぎわいました。懐かしの「べっぺここんにやく」(薄切りにしたこんにやくを串に刺してゆで、味噌を塗ったもの)を高校生ボランティアが販売したり、若いお母さんたちが子ども服のフリーマーケットを開いたり、共同浴場の脱衣所が開放され卓球台が設置されたりと、趣向をこらした出店が並びました。奉納神楽やつきたて餅のふるまいも人気を集めました。

中でも一番注目を集めたのは、「一日限定・名店復活」。町内の若手女性グループが楽しみながら出店準備に取り組み姿に、大衆食堂を営んでいた店主夫妻が一念発起。店をたたくて久しぶりの駅前食堂が、一日限りの営業を行うことに。鍋いっぱいのおでんを用意した食堂の前には、懐かしの味を求めて長蛇の列ができました。

実行委員長の榎一雄さんは「(イベントは)最低3年はやらないと。地域の皆さんの喜ぶ顔がまた見たい」と振り返ります。

伝統を受け継ぎながら、新たな芽生えが通りを彩った冬の一日でした。

往時の「えびす講」



出典:温泉津町合併50周年記念誌

当日の様子



この情報誌は定住促進を目的に発行しています。

発行/大田市役所政策企画部地域振興課定住推進室 ☎:0854-83-8029 FAX:0854-82-5885

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口 1111 番地 E-mail : o-tiiki@iwamigin.jp <http://www.city.ohda.lg.jp/>

おおだの定住PRサイト「どがどが」 <http://www.teiju-ohda.jp/> どがどが 検索

